

特許紹介

第24巻第11號 昭和13年11月

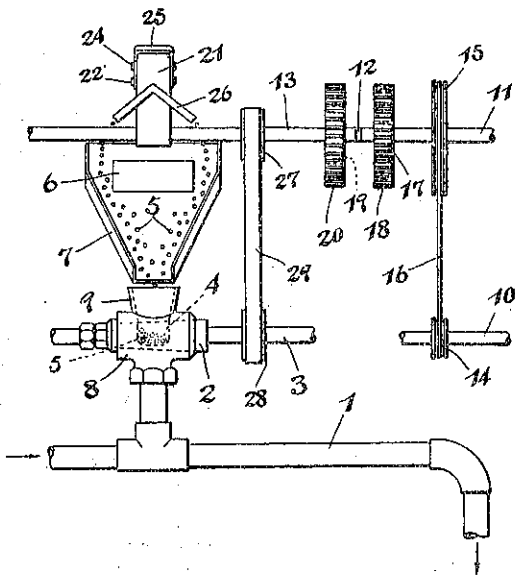
鋼球自動給送方法

(特許第120318號 特許権者(發明者) 柳田昌治)

岩盤の掘鑿にダイヤモンドボーリングの代りに施行せられるショット、ボーリング即ち鋼球掘鑿法の掘進度は通常ダイヤモンドボーリングの約1/2に過ぎないが、若し鋼球の給送量を岩質に応じて最も適切ならしめると共に単位時間に於ける其の給送量を一定に保持する時は、ダイヤモンドボーリングと同等或はそれ以上の掘進度が得られることを實驗上確めた結果、考案したのが本發明である。

即ち給水ポンプより掘鑿孔底に通ずる水管(1)の中途に於て、止栓(2)の軸(3)の回転により水管内に鋼球(5)を断続して給送するやうにし、栓管(8)の上方開口

図-1.



部(9)に對し鋼球收容用容篋(6)内の鋼球を動力による作動で一定量宛自動的に落下させ、其の作動と關聯して上記の栓軸(3)を連続回転せしめるのである(圖-1)。

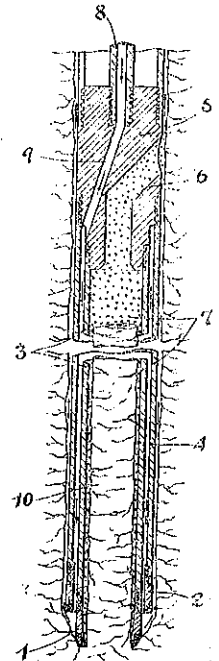
コア採取法

(特許第126319號 特許権者(發明者) 柳田昌治)

従來の回転式二重採取管では、内管の下端を外管の下端よりも下方に位置せしめ削り屑排出用の水が内管内

に入るのを防ぐのであるが、尙孔底から内管内に浸水し或は内管上部の水抜孔から外部の水が逆に内管内に浸入する爲實際にはコア採取中内管内には常に多量の水が溜りこれが爲一旦内管内に採取したコアも引上げの際には洗ひ落され破片狀に割れたコアの如きは全体として少しも採取せられず、石炭の炭質調査の如き重要なコアは實際に容易に採取せられぬ缺點がある。本發明はこの缺點を除去する粘質物を使用するもので、即ち採取管の内管(3)及外管(4)の各上端連結した継手(5)内に内管(3)の上方より其の継手(5)の側方外方に通ずる透孔(6)を設け、所要地域のコアを採取するに際し内管の内部及前記透孔(6)内にグリス其の他の粘質物を充満させ、コア採取管の回転に伴つて内管内に漸次コアが滲入して來るに従ひ粘質物が之と置換して浸水を防止せしめるのである(圖-2)。

圖-2.



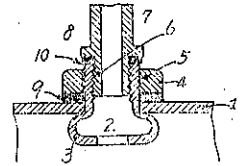
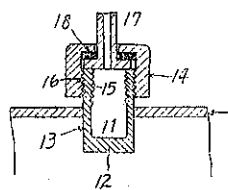
分岐栓取付方法

(特許第126320號 特許権者(發明者) 川崎肇治)

此の發明は水道及瓦斯道の送配管に於て管の厚さが薄くて従來の如く管壁に直接捻子止め付けが出来ない場合に其の荷重状態に於て容易に分岐栓を取付け得る特徴がある。圖-3、4に依り説明すれば、先づ袋形栓体

圖-3.

圖-4.



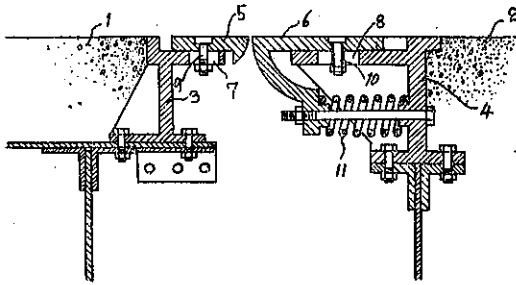
(12)を穿孔内に挿入、しこれに高圧水道管(17)を適宜取付けて栓体の内部に高圧流体を導入して栓体先端を膨脹させる(図-3)。次いで導管(17)を取外して分岐栓を取付けるのである。

跳上橋の改良

(特許第 126083 號
特許権者(發明者) 高木祐吉外 1 名)

此の跳上橋は可動橋体の先端に調整又は摺動し得る踏板(例へば図-5に於て5,6の如し)を附設したも

図-5.



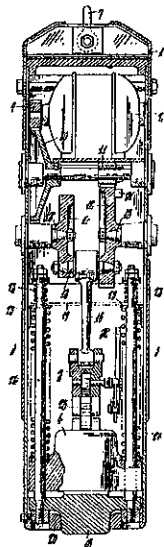
ので、可動橋体の閉合時に踏板遊端が極度に近接し開放の際は何れの側からも自由に跳上げ得るものである(図-5)。

電動杭打機

(特許第 126189 號
特許権者(發明者) 山中直隆)

此の杭打機は4個の主要部分から成る。即ち I. 電動機(2), II. 電動機の回転を傳へて上下動するハンマー釣上装置(3), III. 其の釣上装置の上昇によつて釣上げられた後落下せしめられるハンマー(4)と IV. ハンマーの釣上げ及前記ハンマー釣上装置の降下によつて夫々圧縮せられる發條(5)(6)とから成るもので、ハンマー釣上装置の降下の際には電動機の力によつて發條(6)を圧縮し、其の上昇の際には其の發條(6)の反撥力と電動機の力とで發條(5)を圧縮すると同時にハンマーを釣上げ、釣上装置が略死點に達した時ハンマーを釋放して發條(5)の反撥力及自重によつて之を急降せしめるものである。發條の力を適當に定める事によつて

図-6.



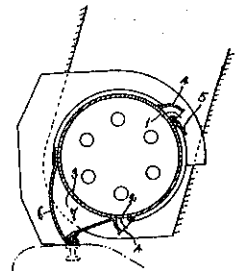
電動機は常に平均する負荷状態で回転せしめられ円滑なる運動を爲し得る特長がある(図-6)。

ローリングダム

(特許第 126072 號
特許権者(發明者) 田原久吉)

元來ローリングダムは胴廻りが鉄板で円筒形に圓まれ密閉せられてゐる結果、其の澁水時に於て水に接觸する部分と日光の直射を受ける部分とが甚しい温度差を生じ兩者各々膨脹收縮するばかりでなく日光の直射を受けた部分の胴内上層部には鉄板の加熱によつて熱せられた空氣が鬱積する爲益々膨脹收縮の度を大にし、ダムの軸線を其の中央部で上向に彎曲せんとする結果、ダムと河底との接觸が断たれ漏水する等の不結果を生ずる。本發明はこの缺點を除去せんとして考案したもので、即ち胴廻り適當の位置に任意數個の換氣孔(1)(3)(3)を設け自然通風による胴内空氣の換氣作用を完全ならしめたものである(図-7)。孔(1)にある(5)はダムの回転に従ひ自重で閉閉するやうした蓋を示す。

図-7.



(附) 登録實用新案

- コンクリート杭及木杭接続装置 (第 255015 號 實用新案權者 河田辰吉 公告 12 年第 300 號)
- 自動車滑止用下敷金網 (第 255251 號 實用新案權者 川崎實正 公告 13 年第 4980 號)
- 坑道内に於ける土圧防守装置 (第 255376 號 實用新案權者 佐藤業祐 公告 12 年第 10364 號)
- 砂利搗固器 (第 255439 號 實用新案權者 佐藤藤郎 公告 13 年第 3173 號)
- 擁壁杭 (第 255446 號 實用新案權者 畑丸芳子 公告 13 年第 4168 號)
- 杭打機に於けるハンマー釣上装置 (第 255667 號 實用新案權者 山中直隆 公告 13 年第 6503 號)
- 堰堤内に於ける排砂装置 (第 255688 號 實用新案權者 株式会社瀧升鐵工所 公告 15 年第 5418 號)
- 爆發撃衝機 (第 255684 號 實用新案權者 フロツク、アンド、ハム フロツク、ゲゼルシャフト、ミト、ベシユレングテル、ハフツング 公告 13 年第 4163 號)
- コンクリート用金網 (第 255777 號 實用新案權者 野本福一 公告 13 年第 6417 號)
- 杭打装置 (第 256342 號 實用新案權者 木川保造 公告 13 年第 4162 號)